

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	博物館資料保存論					授業形態	講義			
科目コード	710103	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○	
担当教員名	永友 良典								ICT活用	
授業概要	<p>博物館資料の保存について、資料の特質を理解し、様々な劣化要因を取り上げながら適切な保存環境や保存方法、資料の活用について学ぶ。さらに、資料保存の原点である正倉院宝物の保存の在り方や曝涼など伝統的な資料保存管理を学ぶとともに、空気環境等の汚染につながる化学薬品等を用いた強制的な保存から自然環境に配慮した保存管理の確保を行う文化財IPMの活動や自然災害から文化財を守り、救出する文化財レスキューの現状など新しい動きについても学ぶ。</p> <p>なお、宮崎県総合博物館と宮崎県立西都原考古博物館で約20年の実務経験があり、文化財IPMコーディネーターの資格も有している。また、宮崎歴史資料ネットワークに所属しており、文化財保存のボランティア活動等にも携わっている。博物館での資料保存業務や文化財IPMの実践、東日本大震災や熊本地震等での文化財レスキュー活動等の実務経験を授業に十分活かすことができる。</p>									
関連する科目	1年次及び2年次に履修した学芸員養成に関する科目									
授業の進め方と方法	事前に予習してきた重要なキーワードを授業で取り上げながら要点としてまとめて行く。授業ではこれまでに蓄積した関連する写真データを使ってわかりやすい授業に務める。									
授業計画【第1回】	第1回 博物館資料保存概論について 博物館資料の保存について趣致と重要性を概説する。									
授業計画【第2回】	第2回 博物館における資料保存活動 宮崎県総合博物館と西都原総合博物館における資料保存の活動を解説する。									
授業計画【第3回】	第3回 文化財保護の歴史 我が国の文化財保護の歴史を技術・制度面で解説する。									
授業計画【第4回】	第4回 博物館資料の劣化要因の概要 博物館資料を劣化させる7つの要因のうち、①温度・湿度 ②証明・光 ③空気質 ④生物被害について概要を解説する。									
授業計画【第5回】	第5回 博物館資料の劣化要因の概要 博物館資料を劣化させる7つの要因のうち、⑤移動・輸送 ⑥災害 ⑦人的要因について概要を解説する。									
授業計画【第6回】	第6回 博物館資料と温湿度管理 博物館資料の劣化要因のひとつである温湿度管理について、資料が劣化する理由や劣化の状態、その対策等について解説する。									
授業計画【第7回】	第7回 博物館資料と害虫被害 博物館資料の劣化要因のひとつである生物被害のうちの害虫による被害について、資料が劣化する理由や劣化の状態、その対策等について解説する。									
授業計画【第8回】	第8回 博物館資料とカビ被害 博物館資料の劣化要因のひとつである生物被害のうちのカビによる被害について、資料が劣化する理由や劣化の状態、その対策等について解説する。									
授業計画【第9回】	第8回 博物館資料と照明・光 博物館資料の劣化要因のひとつである照明と光について、資料が劣化する理由や劣化の状態、その対策等について解説する。									
授業計画【第10回】	第9回 博物館資料とカビ被害 博物館資料の劣化要因のひとつである空気質について、資料が劣化する理由や劣化の状態、その対策等について解説する。									

授業計画【第11回】	第11回 文化財や博物館資料の生物被害対策の歴史 「曝涼」から「燻蒸」、さらに「文化財IPM」といった文化財や博物館資料に対する保存活動の流れを解説する。特に、1300年以上も続けられてきた日本古来の文化財保護システムである「燻蒸」について「正倉院」での活動を取り上げて解説する。
授業計画【第12回】	第12回 博物館と文化財IPM 九州国立博物館を中心に取り組まれている「文化財IPM」の考え方と活動の方法について解説する。授業では文化財IPMを実践している宮崎県総合博物館の活動を紹介する。
授業計画【第13回】	第13回 博物館資料と災害対策 地震や津波、水害等の災害から文化財や博物館資料を守るための危機管理体制、被災資料の救済と修復活動等の文化財レスキュー活動について解説する。授業では阪神淡路大震災や東日本大震災での文化財レスキュー活動を紹介する。
授業計画【第14回】	第14回 博物館資料の修復の方法 文化財修復の意義と方法について解説する。伝統的な方法を取り入れて行われている修復作業を学び、その意義や方法を十分に理解し、修復技術者と協働で取り組みむ必要性を解説する。
授業計画【第15回】	第15回 自然史系博物館の資料保存 植物を中心に、動物、地質等の自然系資料の保存対策について解説する
授業の到達目標	人類共有の財産である博物館資料や文化財を適切に保管・管理し、活用を積極的に進めるために、なぜ、先人から受け継いだ資料を後世に受け継いで行かなければならないかを理解し、そのために必要な保存科学や保存処理に関する基礎知識を養い、学芸員としてどのような資料保存を行えば良いか判断できる能力をつける。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	提示する重要なキーワードについて、内容を事前に調べる。(30分)
授業時間外学習【復習】	授業で解説した課題についてまとめ、提出する。(30分)
課題に対するフィードバック	提出されたレポートにコメントする。
評価方法・基準	定期試験80点 提出課題20点
テキスト	毎回、資料を作成して配布する。
参考書	使用しない。
備考	